

# ばれっと

2008  
11月

No.111

## ■ 目次 ■

すぽっとらいと

アラカルト  
サポセン日記  
イベント紹介  
お知らせ

豊富な経験を生かして、若いママ・パパをサポート  
子育て支援グランマ  
NPOステップアップ講座  
今年もやってます！出前サポセン！  
11月のイベント紹介



### 落ち葉のシーズンを前にして

秋ですね。秋は、市民活動もイベントシーズンです。みなさん、お忙しくしてますか？

ところで、サポセン前の広瀬通は立派な銀杏並木の通りです。緑色だった葉が、これから黄色に色づき、落ち葉の季節を迎えます。

ハラハラと落ちゆく銀杏の葉。

サポセンの秋は、そんな感傷にひたる余裕もなく、イベントの渦の中に深まり行くのであります。

# すぽっとらいと

◆市民活動サポートセンターを活用している団体にスポットをあて、その活動の様子や運営のノウハウをご紹介します。

## 豊富な経験を生かして、若いママ・パパをサポート 子育て支援グランマ

子育て中にちょっとひと息つきたい、友だちとのランチタイムを楽しみたい、病院に行きたい時など、優しさと責任を持って6ヶ月～未就学時の子どもたちを一時預かりしているのが「子育て支援グランマ」です。

今回は代表の大澤ちか子さんにお話を伺いました。



▲大澤代表（右）とスタッフのみなさん

### ●グランマの出番です

取材に伺った日は、ちょうど4人の子どもたちの託児中でした。1歳3～7ヶ月くらいの子どもたちは、お昼ご飯を食べてからのお昼寝の後で、絵本を読んだりおもちゃで遊んだりしながらママたちのお迎えを待っていました。

午後3時過ぎにママたちが戻ってくるとみんな大喜び！うれしくて泣いてしまう子も…。グランマたちが、戻ってきたママたちと子どもたちを交えてお茶飲みをしている様子は、本当の家族のようにほんわかした和やかな雰囲気でした。

### ●「子どもの面倒をみたい」という思い

子育て支援グランマ（以下グランマ）は、平成17年7月に宮城県シルバー人材センターのベビシッター講座修了者の仲間10人で立ち上げたグループです。団体名は、英語でおばあちゃんを意味するグランドマザーの略“グランマ”としました。

「受講したことを生かして何かをしたい、役立てたい」という思いがあっても、最初は何をどうしたらよいかわからず、まずサポセンで団体立ち上げについて相談したり、起業講座を受けたりすることから始めました。



▲ 預かり時の子どもたちの様子

「孫の面倒をみたいのに離れて暮らしているのではその機会がない」「子育てを終え、時間と気持ちに余裕ができたので…」などのさまざまな思いは、託児中、本当の家族のように優しく、しかしきっちりと責任を持って対応しようというグランマの基本姿勢につながっています。

### ●人気の秘密は、優しさと責任

グランマの託児ぶりを実際に託児を利用されていたママさんたちに聞いてみると、「とにかく優しく接してくれるし、預けている間の子どもの様子を丁寧に細かく教えてくれるので、安心して預けられます」と、とても好評です。このような評判が口コミで伝わり、新しく利用される方も、リピーターの方も増えているそうです。

子どもがなついてくれて「また来るね」と言ってくれたり、パパやママからは「預けるのならグランマだよ」と言ってもらえたりするのが本当に嬉しいとのこと。大澤さんは、「ただ事故のないように注意をはらっています。そして、預けてよかった！と喜んでもらえる託児をするように心がけています」と話してくださいました。

また、託児中の遊び方にもグランマならではの工夫があり、新聞紙やチラシを使った手作りおもちゃなどで遊んでいます。折り紙をしたり、色紙を切ったり貼ったりしたものを子どもたちはとても喜んで家に持って帰るそうです。自宅ではなかなか出来ない遊びができて、子どもたちも楽しいのでしょうか。グランマでは、これからもっと遊び方に工夫を凝らしていきたいと考えています。

グランマの人気の秘密は、利用している親子にも喜ばれ、自分たちスタッフも嬉しいと感じられる託児をすること。そんな活動を続けていきたいという思いが、優しさや責任ある活動につながっています。

## 団体紹介

### 子育て支援グランマ

子育てを終えた経験豊かな女性たちが中心となった、子育て支援グループです。子育て中のお母さんたちが安心して子どもを預けてひと息つけるよう、預けられた子どもたちも寂しがないように愛情いっぱい、託児を行っています。

#### <団体連絡・問合せ先>

〒980-0811

仙台市青葉区一番町四丁目1-3 レターケースNo.47

Tel: 090-5238-4544

Fax: 022-368-7908

E-mail: baby-17.7.7-guranma@docomo.ne.jp



▲ グランマとママと子どもたち

### ●サポセンとのいい関係

グランマの主な活動は、子どもの一時預かり。基本的に月・火・金曜日はサポセンで、木曜日はシェルコム仙台でそれぞれ行っています。その他に年に10回ほど、講座やイベント、学校行事などへの派遣託児も行っています。

サポセンは、託児の場として研修室を利用するほか、平成18年9月から事務用ブースも利用しています。事務用ブースには、衣装ケース2個分のおもちゃを含め、託児に使う用具や書類を保管していますし、もちろん会計などの事務作業や打合せの場所としてもフル活用しています。また、レターケースも利用しており、ここで団体あての郵便物を受け取ったり、グランマのスタッフ同士の書類の受け渡しに利用しています。

「サポートセンターは場所も便利です。公共の施設ということで利用者の方々への信頼もあり安心して利用しています。ボランティア保険の掛け方なども教えてもらい、困ったことは何でも相談しています。サポセンが無かったらやっていけませんね」と、代表の大澤さん。

### ●団体運営の秘訣

平成19年1月から二代目の代表となった大澤さんは、初代代表が作り上げた土台を基にそのノウハウを受け継ぎつつも、経費削減を行うなど、試行錯誤しながら団体運営に取り組んでいます。

スタッフの人材育成にも積極的です。グランマのスタッフは、必ず宮城県シルバー人材センターのベビーシッター講座(12日間)を受講して、ベビーシッターの基本、若いママやパパたちとの接し方、子どもの病気についてや緊急時の対処の仕方などを学びます。しかし、仕事に慣れてしまうと、小さいことを忘れてしまったり、おろそかになったりしがちです。そこで、年間予定の見直し

を行い、外部から講師を招いてスタッフの研修会を定期的に行うようにしました。

スタッフは、交替制で託児を行っていますが、急な派遣依頼などの緊急事態には、グランマの活動を優先して駆けつけてくれるなどスタッフの協力体制も整ってきました。現在スタッフは7名。今後新たに3名が加わる予定です。

事務局の仕事も特定の人が担うのではなく、スタッフそれぞれが会計やパソコンなどの得意分野を生かしながら、仕事を分担しています。堅い形を取らずに少しゆるやかに動いていることも団体運営をスムーズにするコツになっているようです。

「これからも少しずつ活動の場を広げ、やれるところまでやってみたい」と意気込みを語ってくれたグランマのみなさん、今後の活躍に期待しています。

### 取材を終えて…

グランマの評判は、何よりも「口コミ」で広がっているようです。知人からの紹介など口コミというのは、一番確実で信頼されやすい情報です。実際に託児の様子を拝見し、利用している方々のお話を伺って、なぜグランマが信頼されているのかよく分かりました。改めて子どもを預かることの意味を認識させられました。

(担当: 能藤 玲子)

#### ～ 一時預かり ～

要予約

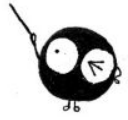
対象年齢 6ヶ月～未就学児  
 託児場所 仙台市市民活動サポートセンター  
 4階 研修室3  
 託児曜日 月・火・金  
 託児時間 9:00～16:00  
 託児料金 お子様一人につき 1時間 600円  
 託児に必要なもの 飲み物、食べ物、オムツ用品  
 着替えなどをご持参ください

# アラカルト

◆市民活動に役立つ情報やサポセンで開催された講座や事業の報告など、毎月いろいろなテーマでお送りします。

## NPOステップアップ講座

— 平成20年度人材育成事業 —



### 輝くボランティアになるための

#### きらきらワークショップ

日時：2008年6月26日(木)19:00~21:00

場所：仙台市市民活動サポートセンター  
セミナーホール

講師：(特活) せんだい・みやぎNPOセンター  
常務理事・事務局長 紅邑 晶子さん

この講座には、すでにNPOでボランティアとして活動している人や、これからボランティアをしてみたいと考えている人が参加しました。ワークショップでは、自分の思いや自分ができることを整理し、実現したい夢に向けて決意を新たにしました。今回は、講座で行ったボランティアのやる気アップのための手法を紹介します。

### ■ワークショップ1 .....

#### いま、ここにいるわけを考える

##### 【手法】

ボランティアとして活動している理由・これからボランティアをしてみたい理由をA4用紙1枚に簡潔に書きだし、発表します。

##### 【効果】

用紙に簡潔に書き出す作業を通して、ボランティア活動者やボランティア希望者が、自分の思いを整理するきっかけをつくります。ボランティアを採用する際の面接や、ボランティアとの定期的な面談などにこの手法を取り入れると、本人と団体双方で活動動機が再確認でき、やる気アップにつながります。

### ■ワークショップ2 .....

#### 自分が提供できること・したいことを考える

##### 【手法】

数人でグループをつくります。簡単な自己紹介をしたあと、組織や社会に自分が提供できることと、それを活用して取り組みたいことをA3用紙1枚に書き出し、それをグループ内の他の人に回して、「こういうことができるのでは？」という提案を書き込んでもらいます。グループ全員の書き込みが終わったところで、書き込まれたことを発表し感想を述べます。

##### 【効果】

文字に書き出すことで、自分ができると・したいことの棚卸しをします。書き出すという作業により、頭の中で考えていたことが、消えずにそのままあぶりだされます。

個人が持っている能力は、料理に例えるならば「食材」です。そこに他の人の視点という1つの「スパイス」を加えることで、いろいろな料理に展開できます。このワークショップを取り入れることで、本人も気付いていない能力を、他の人の視点により発見することが可能になります。

### ■ワークショップ3 .....

#### 夢にエールを送る

##### 【手法】

自分が提供できること、したいことを活かして実現したい夢を考え、A3用紙1枚に書いて、発表します。発表を聞いた隣の人が、その夢に対してエールを送ります。

##### 【効果】

NPOの活動の中で、お互いに励ましあうという場面は意外と少ないものですが、エールを送るワークショップを取り入れることで、一体感が高まり、参加者のやる気がアップします。

#### 担当者の感想

3つのワークショップを通じて、参加者は自分の思いを整理し、新たな目標へ向けて、やる気を一新していました。1つ1つのワークショップは、準備物も少なく、時間もそれほどかかりませんので、ボランティアが集まる機会などにぜひ取り入れてみてください。

## 100人集めるイベントのつくり方

日時：2008年8月26日(火) 19：00～21：00  
 場所：仙台市市民活動サポートセンター  
 セミナーホール  
 講師：Living Together計画ディレクター  
 張 由紀夫さん

この講座では、HIV/AIDSに関わる啓発活動に取り組んでいる「Living Together計画」のディレクター張由紀夫さんに、イベントを通して社会にメッセージを伝えるために必要なこととお話いただきました。

「100人集めるイベントのつくり方」と言っても、今回はNPOステップアップ講座ですので、「NPOが社会にメッセージを届けるためのイベントのつくり方」に焦点を当てました。

単なるイベントの運営ノウハウにとどまらず、イベントの際の心構えや、人々を巻き込んでいく方法などについて、講師にお話ししていただきましたので、以下、ダイジェストを掲載します。

### ●リアリティを共有することから始まる

「Living Together計画」は、多様性をもった視点から、「全ての人がHIVとともに生きている」というリアリティを共有するためのプロジェクトです。HIVを持った人と実際に会ったことがなく、自分には関係がないことだとか、怖いことだと感じている人には、ただ啓発活動をしても伝わりづらいのですが、そんな時に効果的なのが「リアリティ」の共有です。

実際にHIVを持っている人の日常の中の出来事、生きているからこそその喜びや辛さを伝えることで、そこから生まれる共感があります。共感が生まれて初めて、HIVについて、いろいろ考えられるようになるのです。

「リアリティの共有」は、どんなテーマでも応用できる手法だと思います。

### ●綿密な打ち合わせで出演者を巻き込む

「Living Together計画」では、ライブの合間にHIV陽性者が書いた手記を朗読する「Living Together Lounge」というクラブイベントを月に一度、開催しています。いろいろなミュージシャンがライブをすることで、その出演者の周りの人やファンの人たちが集まるようになります。

出演者には、打ち合わせの段階から丁寧に、イベントの趣旨だけでなく、社会の現状まで説明し、あらかじめ手記集を渡して読んでもらっています。イベントの告知には、出演者自身のブログやホームページが効果的ですが、さらに、手記を読んだ感想などを自分の言葉で掲載してもらえると、リアリティが広がっていくことにつながりま

す。自分の知っている人が、自分の言葉でHIVのことをつづっているのを読むと、なんだか身近なことに感じてくるんですね。

### ●会場の工面にもひと工夫

「Living Together Lounge」では、会場費は無料です。もちろん会場であるクラブの厚意で無料になるわけですが、会場側のメリットにもなるのです。イベントは、普段クラブが使われていない日曜の午後の時間に実施するので、参加者が飲むドリンク代だけでも、収入増につながります。

また、会場側に「社会貢献をしている」と思ってもらえるように交渉することも重要です。



▲講師の張 由紀夫さん

### 担当者の感想

イベントに関わるすべての人に丁寧に説明することで、問題をリアルに感じる人たちが増えていき、協力の輪とリアリティの共有が広がっていくということを、実践の経験をもとにお話しいただきました。参加者の感想の中にも、「リアリティ」という言葉が多く登場していました。社会の課題を知ってもらいたいと考えているすべてのNPOにとって、参考になるお話だったと思います。

(担当：太田 貴)

「Living Together計画」のHP  
<http://www.living-together.net/>

◆サポセンのサービスがどんなふうに見えるのか、スタッフが日常の窓口風景をとおして紹介します！

# サポセン日記

今年もやっています！  
出前サポセン！

昨年からはまったサポセンを各地の市民センターなどに出前する「出前サポセン」は、サポセンにある情報や機能、サービスを携えて市民センターなどに出張することにより、より多くの市民の方々や市民活動を行っている団体の皆さんにサポセンをご紹介します。

サポセンは仙台市中心部の広瀬通沿いにありますが、知っている人は知っているけれど、まだまだ広く市民の方々には知られていないのでは…？

「やっぱりサポセンが外へ出て行こう！」  
「多くの市民の方々に、サポセンを知ってもらおう！」  
「各地の市民活動情報を収集してこよう！」の決意を胸に、昨年を引き続き今年度は、「出前サポセン」の第1回目の会場となる若林区中央市民センターにおじゃましました。

9月20日(土) 曇り

AM 8:30

「出前サポセン」というからには、開館以来9年間で蓄積した市民活動団体の情報はぜひ持っていかなくては！若林区を中心に活動している団体の情報、パンフレットやイベントチラシなど、サポセンにある情報をてんこもりにしてサポセンを出発！

AM 10:00

「出前サポセン」のスタートです。

午前中、おもに相談対応。市民センターを利用している方々が、興味深げにのぞいていきます。日頃から市民センターを利用しているサークル活動団体の方も入って来られて、「あら、あの団体は来週お祭りがあるのね～」とチラシを持っていってくれました。

PM 1:30

午後からは若林区で活動する団体の活動紹介を行いました。

参加団体は、CAPみやぎ、NPO法人笹舟、仙台若林子ども劇場、猫塚古墳ねこまつり実行委員会、南小泉チャイルド・セーフティ・ネットワークス、NPO法人ゆめつむぎ、連坊小路マイスクール児童館、木ノ下町内会。分野や立場は違うけれど、地域で活動する8つの団体の方々に集まっていただきました。

「同じ区内で活動はしているけど、どんな活動をしているかよくわからなかった」「実際活動内容を聞いてみるとつながることがある」「活動に関して参考情報が得られた」「活動に巻き込みたい世代や組織とのつながりに関する情報交換ができた」というのが、集まった団体の方々の感想でした。

PM 5:00

「出前サポセン」閉館の時間です。まだまだ情報交換をしたいところですが、荷物をまとめて帰途につきます。

退職後に地域で活動するために団体の話を聞いてみたいという方や、学校で地域構想を勉強し、現状を調べたいという大学生の参加もあり、少しではありますがお役に立てたように思います。  
(担当：伊藤 浩子)

## ■11月以降の予定

11月8日(土)・9日(日) 太白区中央市民センター  
「長町交流フェスタ2008」

12月6日(土) 泉区中央市民センター



▲参加団体による活動紹介の様様

# イベント紹介

## 11月

- サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
- 原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
- 毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。掲載をご希望の方はお問い合わせください。

催日時	イベントタイトル	貸室	参加費	主催/問い合わせ先
11月1日(土) 14:00~17:00	子どもの「非行」や荒れに、親としてどう向き合えば良いのか？本音で語り合い、支え合っていきませんか？	研修室 3	500円 (事前申込不要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 Tel:080-1838-7464 (星野はるか)
11月2日(日) 13:30~15:00	トイレ水洗化までの道のり。肥料とした時代から現在までの仙台を振り返る。	セミナー ホール	無料 (事前申込不要)	仙台・水の文化史研究会 Tel&Fax:022-233-6824 (佐藤昭典)
11月3日(月) 10:30~11:30	最先端の“常識”を身につけるHIV/AIDSの超基本！学習会	研修室 5	500円 (事前申込必要)	東北HIVコミュニケーションズ・やろっこ thc@canpan.info Fax:022-268-4042 No.69
11月3日(月) 14:00~15:30	多様性を感じるAnego Tea Party ～初恋語り～	研修室 5	500円 (事前申込必要)	Anego Fax:022-268-4042 No.26 anegosendai@yahoo.co.jp (太田)
11月5・12・19 (水) 13:00~18:00	「女性の為のカウンセリングルーム」開設。同時募集:カウンセリング勉強会メンバー若干名	研修室 1	初回無料 2回目~2000円 (事前申込必要)	この会 Tel:090-9635-6708 Fax:022-366-3168
11月6日(木) 18:30~21:00	あなたの暖かい手のぬくもりでボランティアに活用しよう。手軽に出来る手技で健康管理にもグー。	研修室 3	受講料:2万円 認定料:1万円 教材費:7千円 (事前申込必要)	JRFA足市場 Tel&Fax:022-223-9023 (森)
11月9日(日) 13:20~16:30	シニア元気笑学校・第6期2日目 1校時:エンディングプラン⑥ 2校時:国語 3校時:交流	セミナー ホール	1000円/日 (教科書、飲み物、おやつ付) (事前申込必要)	シニア元気笑学校 Tel:022-248-3765 Fax:022-248-3775 (校長 渡辺源治) ※申込はFaxで
11月11日(火) 13:30~17:10	平成20年度みやぎ宅老連絡会 創立記念シンポジウム「我が家で暮らしたい」	セミナー ホール	資料代500円 (事前申込必要)	特定非営利活動法人 みやぎ宅老連絡会 Tel&Fax:022-291-4770 (星)
11月12日(水) 19:00~20:30	チラシに活かす手描きの技	研修室 2	1000円 (事前申込必要)	メディアデザイン Tel:090-3049-0613 Fax:022-224-5308 (千葉)
11月13日(木) 17:00~20:00	「傷つきからの回復プログラム」 —それぞれの生きづらさを開放する糸口を一緒に見つけませんか？	研修室 3	1000円 (事前申込必要)	みやぎ「非行」と向き合う親たちの会 Tel:080-1838-7464 (星野はるか)
11月13・14・17 (木・金・月) 9:45~16:00	保育サポーター養成講座 子育て経験を生かして、子育てのお手伝いをしたい方のための講座	セミナー ホール	4,000円 (事前申込必要)	(財)21世紀職業財団宮城事務所 Tel:022-214-2080 Fax:022-214-2520 (高橋)
11月18日(火) 10:00~11:45	親業セミナー 「考える力を育てる」 ～子どもとどう関わる？～	研修室 5	500円 (事前申込不要)	PETフォーラム Tel&Fax:022-281-0858 <a href="http://www.K3.dion.ne.jp/~smile55/index.html">http://www.K3.dion.ne.jp/~smile55/index.html</a> (石田えみ子)
11月18日(火) 15:00~17:00	環境に配慮した道づくり、道まもり、道使い	セミナー ホール	無料 (事前申込不要)	宮城県技術士会 Tel:022-723-3755 Fax:022-723-3812 (吉川)
11月24日(月) 14:00~17:00	ぼくらの課外授業 ～Living Together in SENDAI～ Show,Reading and more. . .	市民活動 シアター	無料 (1drink 500円) (事前申込不要)	東北HIVコミュニケーションズ・やろっこ (平成20年度 厚生労働省エイズ対策研究事業) thc@canpan.info Fax:022-268-4042 No.69
11月30日(日) 14:00~16:00	シャプラニール全国キャラバン講演会「バン格拉デシュ農村の変化と家族」の暮らし	セミナー ホール	300円 (事前申込不要)	シャプラニール仙台・ポンドウの会 Tel&Fax:022-377-1407 (原)

# お知らせ ●○○●

## サポセン・シアターを3倍面白くする企画選考プログラム

三角フラスコ#30『NO fear』 主催：三角フラスコ  
 国道沿い。つぶれかけたボウリング場の隣に建つ食堂の2階に、彼らは集まってくる。それぞれの目的を胸に秘めて。バラバラな彼らは戦っている。もう恐れるものなんて、ない。これは複雑化した日常を生きぬくための物語。

日時	14:00	19:30
11月8日(土)		○
9日(日)	○	
10日(月)		○
11日(火)	○	○

開場  
各20分前  
 受付・当日券販売  
各45分前  
 ※11日14:00の回のみ  
託児あり。要事前申込。

問合せ：三角フラスコ  
 TEL:022-728-1383 E-mail:info@frascoweb.jp  
 http://www.frascoweb.jp

第93回公演『ノアとハワード』 主催：劇団麦  
 アメリカ史上最大の富豪として今なお語り継がれる「ハワード・ヒューズ」。しかし、彼の成功は側近ノア・ディートリッヒの存在無くしてはあり得なかった。ノアとハワードの出会い、そして別れを通して大富豪と呼ばれた人物の真の姿を描く。

日時	午前	午後
11月21日(金)		19:00
22日(土)		13:00 18:30
23日(日)	11:00	

開場  
各30分前  
 受付・当日券販売  
各60分前  
 ※22日13:00の回のみ  
託児あり。要事前申込。

問合せ：劇団麦  
 PHS:070-5475-2158 携帯:090-4315-7024  
 E-mail:info@mugi1964.com

## 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO法人、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

- 開館時間 平日 / 午前9時～午後10時  
 日曜・祝日 / 午前9時～午後6時

- 休館日のお知らせ（施設点検等のため）  
**10/29(水) 11/26(水)**

## サポートセンターのサービスあれこれ

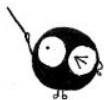
- 貸室  
 (研修室・セミナーホール・市民活動シアター／有料)  
 打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。
- ロッカー(有料) レターケース(無料) 事務用ブース(有料)
- 交流サロン  
 少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)  
 チラシ・ポスターの掲示、展示スペース  
 インターネット接続スペース(要申込/無料)
- 情報サロン  
 市民活動団体に関するさまざまな情報があります。  
 市民活動相談の受付や図書の見学・貸出も行っていきます。  
 市民活動に関する情報収集用 インターネット閲覧(無料)
- 印刷作業室  
 印刷機(紙持ち込み/1製版100円、紙折り機(無料))  
 コピー機(1枚10円)

## ■ 問い合わせ先 ■

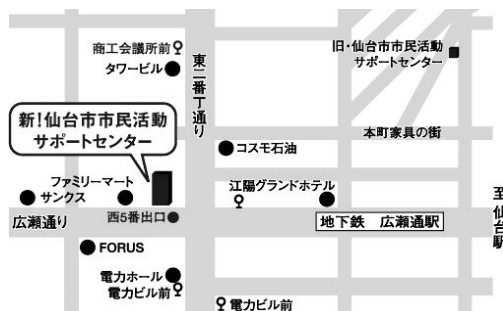
発行：仙台市市民活動サポートセンター  
 (指定管理者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター)  
 〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3  
 TEL:022-212-3010 FAX:022-268-4042  
 ホームページ http://www.sapo-sen.jp

発行日：2008年10月23日  
 編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター  
 編集人：小松州子 葛西淳子

- ★古紙再生紙を使用しています。
- ★大豆油インキを使用しています。



## ■ 案内図 ■



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。  
 [最寄のバス停]電力ビル前、商工会議所前、  
 広瀬通一番町前、地下鉄広瀬通駅前  
 [地下鉄]広瀬通駅西5番出口すぐ  
 □当施設に駐車場・駐輪場はございません。  
 お車や自転車でご来館される方は、  
 周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。  
 (注)路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

## 編集後記

- ◆仙台宮城ディスティネーションキャンペーンが始まり、蒸気機関車が走ったり、秋なのに仙台七夕が観られたり…。県内の美味しいものを探る小旅行にでも出かけてみようかな。(葛西)
- ◆8月末から始まったサポセンシアターを3倍面白くする企画は、やはり面白い！10月からも演劇などが次々と登場します。お見逃しなく！(小松)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。  
 指定管理期間：2007年4月1日～2010年3月31日